

江別商工会議所 ななかまど通信

日商景気観測調査 12月調査結果 業況DIは、感染再拡大により足踏み 先行きも不透明感増す中、慎重な見方

日本商工会議所が発表した12月の全産業合計の業況DIは▲46.1と前月から0.3ポイントの悪化。米国・中国向けの生産増が続く自動車関連や、デジタル投資の増加を背景に受注が持ち直している電子部品関連が牽引したほか、巣ごもり消費に下支えされた飲食料品関連が堅調に推移した。一方、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い、宴会需要が減少した外食産業では売上が低迷した。また、GoToトラベルの一時停止を受けて年末年始の予約キャンセルが相次ぐなど、宿泊業を中心に幅広い業種で今後の影響拡大を懸念する声が強まっている。持ち直しつつあった中小企業の景況感は、感染再拡大の影響から足踏みし、業況改善に向けた動きは力強さを欠く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲44.1（今月比+2.0ポイント）へ改善。生産回復が続く自動車や電子部品関連の製造業による下支えや巣ごもり消費の拡大が見込まれるほか、補正予算に基づくGoToキャンペーンの延長を受け、一部では個人消費持ち直しへの期待感もうかがえる。一方、新型コロナウイルスの感染再拡大を背景に、消費者のマイナ低迷が懸念される中、中小企業においては先行きへの不透明感が増しており、慎重な見方が強まっている。

ブロック別では、北海道地区が ▲46.8 と、前月から 0.8 ポイント改善。

◎小売業では、冬の賞与減少等の影響により、消費者の節約志向が一段と高まったことから、百貨店で売上が減少したものの、巣ごもり需要を捉えた高付加価値の総菜を中心に引き合いが増加し、スーパー等の小売店で採算が改善。一方、サービス業では、新型コロナウイルスの感染再拡大とGoToトラベルの札幌市除外の影響を受け、飲食業、宿泊業を中心に予約のキャンセルが増加するなど、売上が悪化した。

※全国337商工会議所が2,758企業にヒアリングを実施

※DI値とは、（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）による値。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答（「増加」や「好転」など）の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答（「減少」や「悪化」など）が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味します。

《 2月定例相談日のお知らせ 》

金融相談

☆日 時／2月9日（火） ・午前10時00分～午後3時00分

☆場 所／江別商工会議所 ☆相談員／(株)日本政策金融公庫札幌北支店

※事前にお電話にてご予約下さい。（TEL:382-3121）